

此の頃の太陽黒点活動

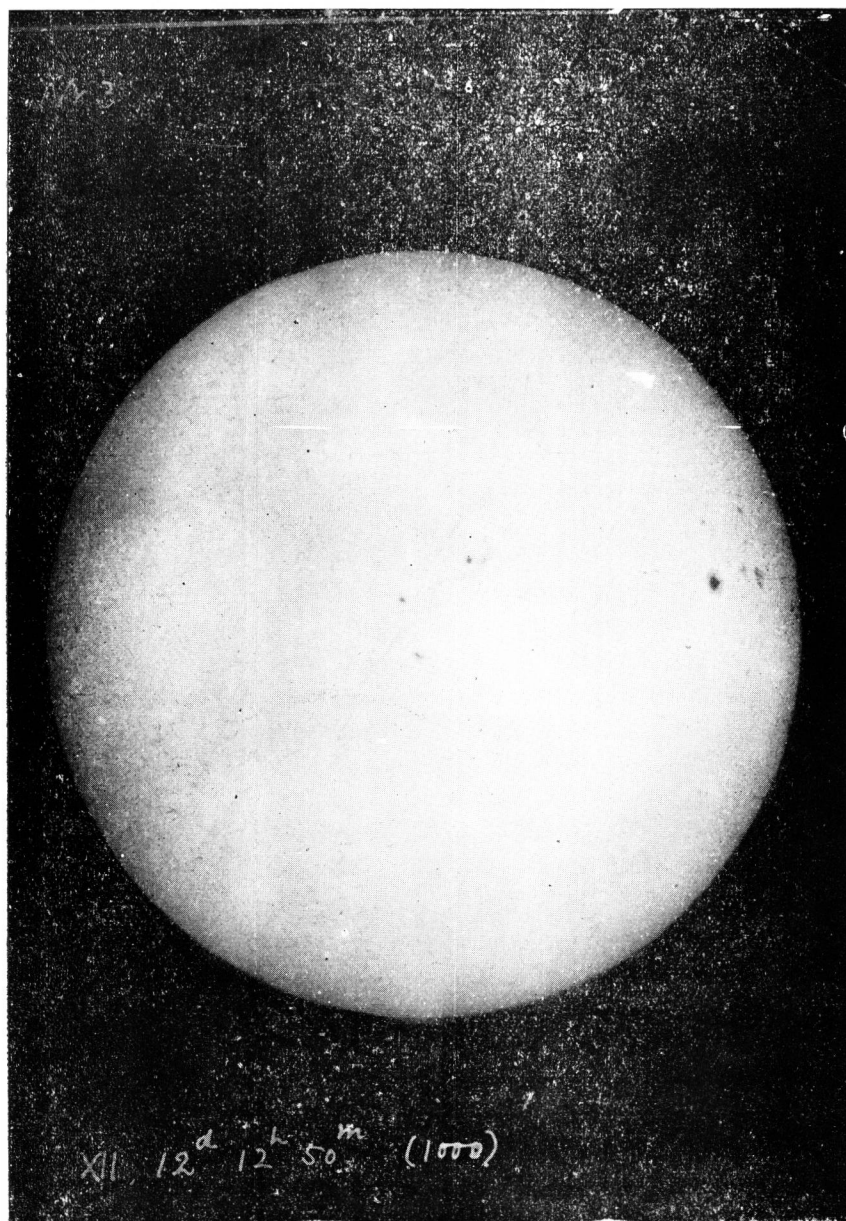
太陽の黒點は一昨 1928 年の中頃を頂上として、それから漸次減衰しつつあるのであるが、しかし其れは平均數の話である。

實際、各月各日の黒點の現はれ方を見てゐると、中々どうして、衰へるどころか、却つて盛んになつてゐるのでないかと思はしめるやうな場合が少なくない。殊に昨 1929 年の六月や、年末に近い十月以後の狀況は、實に 1928 年にも例を見なかつたやうな猛烈な黒點現象が認められ、従つて我が地球上にも、電磁氣的、氣象的變動が激しかつた。諏訪の三澤氏の黒點觀測旬報によると、

1929 年 七 月	上 旬	太陽黒點相對數	95.3 (平均)
	中 旬		96.4
	下 旬		94.8
八 月	上 旬		76.6
	中 旬		126.9
	下 旬		58.7
九 月	上 旬		33.8
	中 旬		46.9
	下 旬		37.7
十 月	上 旬		72.0
	中 旬		50.7
	下 旬		59.9
十一月	上 旬		79.1
	中 旬		83.8
	下 旬		96.6
十二月	上 旬		126.9
	中 旬		164.7
	下 旬		145.3
1930 年 一 月	上 旬		74.4

といふ有様であつて、此のさき如何なるのか全く豫想がつかない

右の寫眞は昨 1929 年十二月 12 日の太陽面を花山の 18 センチ赤道儀で森川理學士が撮影したものである。右端（西端）に近い大黒點は肉眼にも見えたものであつた。



去る 1929 年十二月 12 日の太陽
(花山天文臺森川理學士撮影)